

## 2024 年度の授業

受講者数は、1 クォーターでは 63 人、3 クォーターでは 269 人で、合計 332 人でした。今年度も人数にばらつきがあるものの、すべての学部から学生が参加していました。

各グループは、次のような地域課題に取り組みました。

人口減少を食い止めるには：香川県丸亀市／香川県で出産・子育てを安心してできる環境作り／若者の人口減少：香川県／小豆島の交通改善／茨城県稲敷市の人口減少と過疎化について／人口減少対策：香川県／香川県塩江町の地域活性化／交通マナーの向上：反射材を普及させて／人口減少と若者の流出：香川県／離島振興：今、男木島はどうすべきか／結婚・出産・子育ての希望をかなえる：香川県さぬき市の現状から考える少子化対策とは／子育てしやすい地域社会にするために／出生率の低下と働き方改革

## 受講者の感想

- これまで自分が行ってきた解決策の導き出し方とは違った DRI を活用した新たな導き出し方で地域課題について考えることで、新たな観点から地域課題をとらえ、これまでの考え方では導き出せなかったような解決策を考えられるようになったと思う。解決策を考える中では、グループ活動を通して自分では考え付かないような方法が出てくるため、自分が新たな価値観を吸収していくのを感じた。（教育学 1 年生）
- DRI の考え方をただ勉強するのではなくグループワークによって実践的に学ぶことができたので、実際にどのように DRI を活用するのかよく理解することができた。また、各グループの発表やグループワークによって、他のメンバーやグループがどのように DRI の考え方を受け止め、活用したのかが知ることができて視野を広く保つことができる授業だった。授業外で DRI それぞれについて勉強することで、地域課題の解決にどう DRI を活かすのかゆっくり考えることができたのもよかった。発表に対する感想を参考により DRI の考え方を現実の問題に対してうまく活用したい。（法学部 1 年生）
- 「はじめて学ぶ DRI」を通して、人口減少や少子高齢化等が進行する現代社会には様々な課題があることを再認識することができ、これらの問題を解決したいという意欲が高まりました。人口減少や少子高齢化が現在、問題視されているのは認識していましたが、それらの事例や背景、歴史等などは全く知らなかったため、少し他人事として考えていたように思います。自分たちで問題の事例を探し、それらの問題について具体的に深く知っていくことで他人事として考えてはいけない、今の自分にできる精一杯のことを取り組もうと思えるようになりました。グループワークを通して意見を交換し合うことでも、それぞれの感性が違っているため、いろいろな意見が聞けてとても興味深かったです。パワーポイントの作成では、しっかり役割分担をし、計画的に進めることができました。デザイン思考やリスクマネジメント、インフォマティクスなど様々な観点から他者に対する共感を基盤とするデザイン思考を活用し、人々が共に幸福に生きる、安全安心な社会の実現を目指し、ビッグデータやICTをはじめとしたツールを駆使して物事を考える力をつけることができました。（医学部 1 年生）